



しんげんせいのおそくせんしやう 心原性脳塞栓症

問 稲城市保健センター

☎ 378-3421

脳梗塞のうこうそくには、高血圧、動脈硬化などによる血管の病変によって血管が詰まって発生するケースの他に、血流に乗って流れてきたものが脳の動脈に詰まって梗塞

を引き起こす脳塞栓があります。「心原性脳塞栓症」という言葉はあまり聞き慣れないかと思いますが、心臓の病気が原因で心臓の中に血栓ができ、それが血流に乗って脳の中に流れ込んで血管を塞ぐことによって発症するものをいいます。心臓の病気の中でも一番多いのが、心房細動といわれる脈拍のリズムが一回一回まちまちになるタイプの不整脈で、心原性脳塞栓症の原因の半数を占めています。心房細動では、動悸、前胸部の不快感などを訴えることもあ

りますが、多くは無症状で、健康診断など偶然の機会に見られます。症状がないからと放っておくと危険です。年間5%、つまり年間心房細動のある人の20人に一人位の割合で発症するといわれています。ごく短時間の手足の麻痺・しびれ、言語障害などが前触れになることもあります。ほとんどの場合発症は突然起こります。突然の意識障害、麻痺、言語障害から、寝たきりになってしまうことも珍しくありません。予防には、抗凝固薬、すなわち心臓で塞栓

のもとになる血栓が出来にくくなるように、血液の凝固を抑える薬を内服することがおこなわれます。以前はワーファリンという薬がこの目的で使われる唯一のものでしたが、最近ではいくつかの新しい抗凝固薬が使えるようになり、ケースによって使い分けられるようになりました。放置して悲劇的な結果を招かぬようしっかりと対応したいものです。

稲城市医師会

厚東 篤生